

ハシリドコロ

概要

和名（科名）	ハシリドコロ（ナス科）
別名	オメキグサ、サワナス など
特徴	<p>茎高は30～60cm、根茎は肥大し、節を生じる。茎や葉は無毛で柔らかい。葉は互生し、葉身は狭長楕円形で有柄。花は花柄の先端につき帯紫黄色、広鐘状で5浅裂し早春に咲く。果実は球形で径はおよそ1cm、萼に包まれる。根茎をロートコン（莨菪根）といい、鎮痛薬などに用いるが、有毒のアルカロイドを含むため劇薬に指定されている。</p> <p>古来、芽生えをフキノトウ（ごく若い芽生え：有毛）や柔らかく美味しそうな山菜と誤認する中毒事故が発生している。誤食するとほろ苦く、思いのほか美味であるが、後に嘔吐やけいれん、昏睡などの中毒症状を発症する。</p>
有毒成分	アルカロイド（ヒヨスチアミン、アトロピン、スコポラミン）
分布	日本各地のやや湿り気のある林床や沢沿い

毒性

部位	根茎および根	葉	果実
毒性	強毒	強毒	強毒
食用の可否	×	×	×

（写真）



ハシリドコロの花



ハシリドコロの果実





ハシリドコロの地下茎



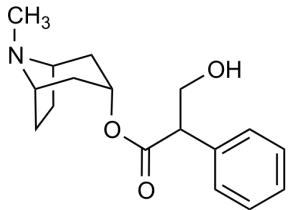
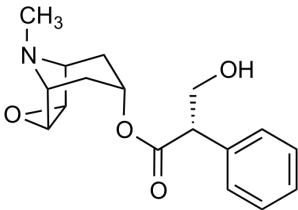
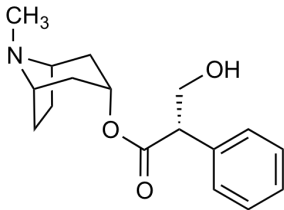
ハシリドコロの芽生え

詳細

1 特徴

一般名	ハシリドコロ（地方名：オメキグサ、サワナス など）
学名	<i>Scopolia japonica</i> Maxim.
分類	ナス目 Solanales、ナス科 Solanaceae、ハシリドコロ属 <i>Scopolia</i>
生育地	本州から四国、九州のやや湿り気のある林床や沢沿いに生育。朝鮮半島にも分布する。
形態	<p>多年草で、根茎は肥大し、節を生じる。茎や葉は無毛で柔らかい。葉は互生し、葉身は狭長楕円形で有柄。花は花柄の先端につき帯紫黄色、広鐘状で5浅裂し早春に咲く。果実は球形で径はおよそ 1cm、萼に包まれる。根茎をロートコン（莨菪根）といい、鎮痛薬などに用いるが、有毒のアルカロイドを含むため劇薬に指定されている。</p> <div><div><p>ハシリドコロ：花</p></div><div><p>ハシリドコロ：芽生え</p></div><div><p>ハシリドコロ：果実</p></div><div><p>ハシリドコロ：地下茎</p></div><div><p>フキ：若い花の芽生え</p></div></div>

2 毒性成分情報

毒性成分	<p>アルカロイド（ヒヨスチアミン、スボコラミン）など。 有毒成分はチョウセンアサガオ類やブルグマンシア（園芸植物名：エンジェルストランペット）と類似する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>atropine</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>scopolamine</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>hyoscyamine</p> </div> </div>
中毒症状	誤食すると、嘔吐やけいれん、昏睡などの中毒症状を発症する。
発病時期	1～2 時間で発症
発生事例	2008 年 4 月 24 日、神奈川県内の 60 歳代の夫婦が、前日の 23 日に東京都郊外の奥多摩で採取した本植物を昼食におひたしにして食したところ、嘔吐やけいれんを発症した。2 人とも病院に搬送されたが、夫は重症、妻は軽症であった。幸いその後回復し、退院した。
中毒対策	有毒成分はゆでる、炒める、天ぷらにするなど家庭における調理程度の加温処理では分解されない。植物の特徴をよく確認し、安易な思い込みは避けた方がよい。

3 その他の参考になる情報

その他	<p>東京都福祉保健局ホームページ・知って安心～トピックス～「間違いやすい有毒植物」 http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shokuhin/dokusou/05.html</p> <p>その他、薬科大学や薬学部、都道府県の HP など。</p>
間違いやすい植物	芽生えをフキノトウ（ごく若い芽生えは有毛、ハシリドコロは無毛）、柔らかい葉をギボウシなどの山菜と誤認しやすい。